

第1回碩田中学校区新設校開校準備委員会 会議要旨

日時：平成27年4月21日（火）19:00～20:45

場所：大分市教育センター・302 研修室

○出席者 18名

1. 開会のことば

2. 出席者自己紹介

3. (仮称) 碩田中学校区新設校開校準備委員会規約（案）について

<主な意見>

【委員】 専門部会の構成員の中に地域関係者が参画していないが、規約の中に「必要があると認めるときは、会議に委員以外の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる」という形だけで地域の協力体制ができるのか疑問に思う。専門部会に地域の人が出席を求められても、時間的に準備もできないし、今までの経緯も分からないので、結局議論できないとなるのではないかと心配がある。やはり専門部会に地域の代表者が参画する必要があると思う。

【委員】 専門部会で検討する内容は多岐にわたり、例えば学校支援部会で通学の見守り態勢について仮に3ヶ月間協議するのであれば、青少協の方や見守りボランティアの方などの関係者と専門部会と一緒に協議していただくことを考えている。そのようにテーマを決めて一定期間集中的に協議していただくとの考え方なので、専門部会に2年間ずっと参画していただくのも負担を掛けるのではないかと思ひ、テーマに応じ地域の関係者の方々にその都度参画していただきたいと考えている。

【委員】 専門部会に地域の方が参画しても意見を述べるだけで、専門部会で結論を出す場合には地域の方は委員ではないので決定権はないのではないかと。専門部会でいろいろな意見をまとめて、準備委員会に報告し決定していくという組織であれば、専門部会が一番重要であると思う。専門部会の段階で地域の意見を反映させ、地域の積極的な協力を得る体制を構築するという意味で、やはり地域の方が専門部会に参画する必要があるのではないかと思う。

【委員】 地域の方が専門部会に参画するのであれば、地域の代表として各専門部会の部会員として1名位置づけ、保護者や教職員と同じスタンスが良いのではないかと思う。また、テーマごとに「会議に委員以外の出席を求め、説明又は意見を聴く」ということで、専門分野の関係者の参画を依頼すればよいのではないかと思う。

★ 確認事項

- 学校部会、学校支援部会、施設部会の3つの専門部会に、各小学校区から地域関係者1名ずつが専門部会の構成員として参画する。
- 規約については、地域関係者を別表第2に追加し後日配付する。なお、趣旨については承認され、施行期日は4月21日とする。
- 会議に委員以外の出席を求める場合は、各専門部会のテーマに応じて、地域の関係者に参画を願う。
- 開設準備委員会、専門部会とも委員が出席できない場合は、代理出席を認める。

4. 会議の傍聴に関する要領（案）について

★ 確認事項

- 異議なく承認され、施行期日は4月21日とする。

5. 委員長、副委員長あいさつ

- ・規約の第4条に基づき、委員長に碩田中学校の伊藤校長先生、副委員長に碩田中学校の佐藤PTA会長が承認され、就任に当たってのあいさつがある。

6. 議事

(1) 経過報告

- ・碩田中学校区適正配置推進方針、碩田中学校区施設一体型小中一貫教育校ランドデザインについて説明する。

(2) 開校準備委員会の運営について

(3) 会議の開催について

- ・開校準備委員会と専門部会の運営や会議の開催について、議事2と議事3を一括して説明する。

★ 確認事項

- 開校準備委員会は3ヶ月に1回程度開催し、各専門部会からの報告事項の検討、承認などを行う。
- 各専門部会は1ヶ月に1回程度開催し、検討結果を部会長、副部会長が開校準備委員会に報告する。
- 開校準備委員会の活動を周知するため、開校準備委員会NEWSを発刊し、積極的な情報発信に努める。
- 第1回の専門部会を5月11日（月）19時から大分市教育センター大会議室において、3つの専門部会合同で開催する。
- 各専門部会の部会員の選任については、開校準備委員会の委員に依頼するとともに、第1回専門部会の日程を伝えてもらう。

(4) その他

- ・開設準備委員会の今後の日程を説明する。

★ 確認事項

- 第2回の開校準備委員会は、8月18日（火）の19時から大分市教育センターの302研修室で開催する。
- 今後の日程として、第3回は11月17日（火）、第4回は平成28年2月16日（火）を予定している。

- ・開校準備委員会のアドバイザーである大分大学福祉科学部の伊藤教授、日本文理大学の西村准教授に、本日の会議の感想や今後の進め方などに関して助言いただく。

【アドバイザーから】

- ・小中一貫教育は国の教育の大きな流れになっており、おそらく近いうちに制度化されるのではないかと考えている。大分県の場合は、都市部において施設一体型の小中一貫教育校は初めてということになり、全国的に見てもそれほど数が多いわけではない。おそらく開校に向けた準備のプロセスや開校した後も注目される学校になるだろうと考えているので、保護者の方々、地域の方々や学校、行政が一体となって、よい学校づくりができるように願っているし、期待している。
- ・品川区の小中一貫教育校は先進的な教育活動ができており、内容が非常に充実しているので参考になると思う。また、小中一貫教育校の課題もピックアップされており、そういう問題が起きないようにするためにはどうすればよいかなどの議論ができるのではないかと考える。
- ・歴史を持った学校は蓄積された協力のあり方に非常に厚みがあり、先生方と保護者、地域の皆さんが新設校にどのように厚みを持って継承していくかが今後の100年、200年を創っていくための重要なカギになると思う。
- ・今まで1年間施設設計に関わってきたが、新設校には地域連携室、アトリウムなど多くの人たちが集まって皆で使う部屋もあり、その使い方が開校準備委員会の中で話が積極的に展開できれば、地域と連携して学校づくりができるという模範になるだろうと思う。

7. 閉会のことば